

## 文学博士田仲一成君の「中国祭祀演劇に関する研究」に対する

### 授賞審査要旨

田仲一成君の標記研究は主として、次の三著書より構成される。

『中国祭祀演劇研究』（東京大学東洋文化研究所一九八一年三月、東京大学出版会一九八一年八月）本文九二二六頁

『中国の宗族と演劇』（東京大学東洋文化研究所一九八五年三月、東京大学出版会一九八五年三月）本文一一一六頁

『中国鄉村祭祀研究——地方劇の環境』（東京大学東洋文化研究所一九八九年三月、東京大学出版会一九八九年三月）本文二二三二頁

この三著は、中国演劇が農村の豊饒祭祀儀礼にその起源をもつものとする展望（仮説）の上に立って、中国の鄉村祭祀から演劇がいかに発生し、発展変貌し、また各地に伝播したかを追求したものである。

第一冊の『中国祭祀演劇研究』は、鄉村祭祀からの演劇の発生、展開、伝播の過程を中国鄉村の社会環境と関連させて組織的に説明しようとしたものである。先ず「発生」の問題については、鄉村が毎年、春秋に行う農祭の巫と神の交流の儀礼から雑戯や喜劇が発生することを説く。別に鄉村は七月中元節に、非業の死を遂げた孤魂の祟りを防ぐ目的で建醮を行うが、この建醮における孤魂と僧侶道士の対舞対唱の儀礼から悲運の英雄や女性の身の上を語る悲劇

が成立するとする。この孤魂祭祀から悲劇の発生を説く立論は、従来の内外の中国学研究者が証明しかねていた問題に本格的に取り組んだものであり、中国の戯曲史、文学史への有益な貢献である。次に「展開」については、中国郷村の祭祀組織が村落や市場を基盤とする地縁的なものと、宗族を基盤とする血縁的なものとに分かれており、これに対応して中国演劇史では郷村型、市場地型の通俗的な演劇と、宗族型の優雅な演劇とが宗族の村落支配の消長に随って盛衰をくりかえすとする。この理論的指摘は雅曲と俗曲の交代をくりかえす戯曲史の解釈に貢献する所が大きい。

第三の「伝播」については、一つのエスニック・グループの中で下層の郷村演劇は住民の移住によるほかは他の地方に伝播することはないが、上層の宗族演劇は官僚や商人の社交・通婚などのネット・ワークにより遠方に容易に伝播すると説く。これを多数のエスニック・グループが移住併存する香港社会について立証している。この点も中国の地方劇の多様な分布状況を説明できる包括的な試みとして評価し得る。特に古代の社祭記録を先秦漢魏六朝にまで遡り探求しただけでなく、宋元以降の郷村文献、同族記録、戯曲脚本等を博搜博引し、これらを字句の校訂を含めて慎重に分析し、更に現地調査を背景とした解釈を加えており、文献資料の発掘、解釈という面でも貢献するところが大きい。

第二冊の『中国の宗族と演劇』は、香港の同族村落の記録を蒐集し、宗族による支配が同族の演劇のみならず、郷村の演劇、更には市場地の演劇にまで強く貫徹していることを実証したものである。特に第一冊では中元祭祀の例をあげるにとどまっていた孤魂祭祀について、香港の大宗族が十年に一回行う大規模建醮祭祀の事例を多数あげ、これを通して孤魂祭祀から悲劇が発生する背景と仕組みを掘り下げて追求している。また中元祭祀自体についても新たに

シンガポールの莆田人の行く十年一回の大規模中元祭祀の実態を精査し、孤魂祭祀の戯曲である目連戯の古いテキストを発掘したことも大きな成果として評価できる。なお本冊については、最近（一九九二年八月）、中国の上海古籍出版社より、《海外漢学叢書》の一つとして中国語全訳本（銭杭・任余白共訳『中国的宗族与戯劇』）が出版された。この研究に対する中国側の評価を窺うことができる。

第三冊の『中国郷村祭祀研究——地方劇の環境』は、郷村祭祀に内在している巫術儀礼がいかにして巫術の羈絆を脱して芸能的なものへと変貌を遂げてゆくかを分析したものである。広東・福建のほか安徽の追儺系巫術（仮面劇）についても実地調査に基づく検討を行っており、東アジアの仮面劇の比較に寄与する点が大きい。

以上三冊によって著者は『祭祀演劇研究』という新しい学問を開拓し確立したといえる。未開拓の分野であるだけに第一次資料（系図、地図、会計簿、碑文、儀礼文書、歌謡テキスト、戯曲テキスト等）を大量に収録する必要に逼られ、異常に浩瀚な形態となったが、新資料の提供という意味での貢献も大きい。

これら三冊の真髄は、従来都市の娯楽から発生したと考えられて来た演劇を、実は農村の祭祀から発生、発達してきたものではないかという全く異なった角度から見直した点にある。香港中文大学の碩学、饒宗頤教授が田仲君の研究を偉大な業績として、中国、香港、欧米への多大の影響を絶賛している。事実、この研究は中国大陸、香港、台湾、アメリカ、シンガポールなどで翻訳、書評などにより広く紹介されており、近年、これらの地域で祭祀演劇の研究が澎湃として起こってきたのも、本書に負うところが大きいと言いうことができる。